

富良野市新庁舎建設基本設計概要

～ 人、まち、自然をつなぎ、次世代の子どもたちへつなぐ庁舎をめざして ～

◆建物概要等

建設位置	富良野市弥生町1番1号		
敷地面積	12,654 m ²		
構造	鉄筋コンクリート造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造 (耐震構造)		
階数	地上4階	建物高さ	20.9m
駐車台数	来庁者用 142台	公用車用 40台	駐輪台数 30台
建築面積	3,206.14 m ²	延床面積	8,713.73 m ²

◆配置計画

- ・ 現庁舎を使用しながら新庁舎を建設するため、新庁舎は敷地北側に配置。
- ・ 歩行者及び車での来庁者に配慮、北側と南側に主出入口を設置。
- ・ 敷地南側に駐車場を集約。主出入口付近に思いやり駐車場。建物東側に駐輪場。

◆5つの基本方針（基本計画の基本方針に基づく施設計画）

1 防災拠点機能を発揮できる災害に強い庁舎

- ・ 耐震構造を採用、非常時のライフライン（3日間）確保。1階床レベルを0.5m高上げ、重要設備の上層階設置で浸水リスクを回避。1階と2階以上で設備系統分け。建物安全性と業務継続性を確保。

2 市民が利用しやすい庁舎

- ・ 分散している庁舎機能を集約。市民窓口をワンフロアに配置、「総合窓口」を1階に設置。
- ・ 市民活動、窓口・執務室、議会エリアを区分し市民が利用しやすい階構成。

3 人や環境にやさしい庁舎

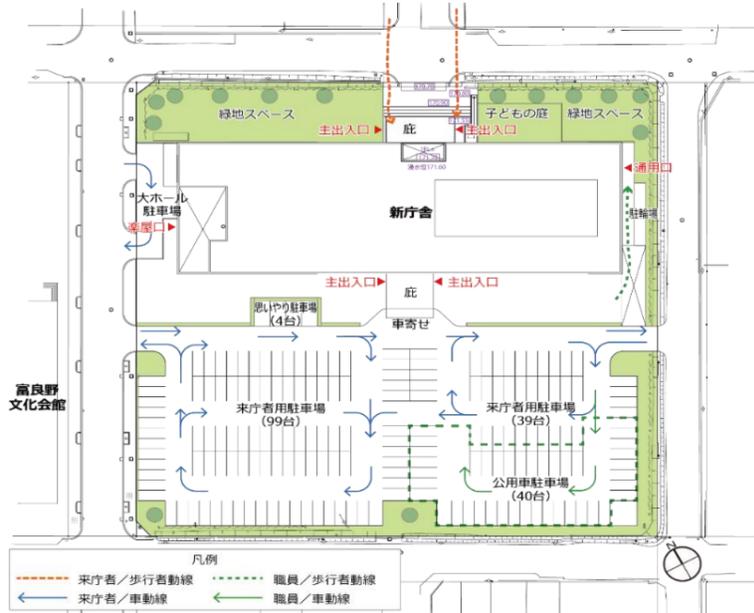
- ・ 各階に多目的トイレ、段差の無い床、授乳室など整備。利用者にやさしい庁舎。
- ・ 地中熱やコミュニケーションポイド（吹抜空間）の自然光・通風で自然エネルギー活用。

4 機能性・効率性・経済性を重視した庁舎

- ・ 汎用性の高いコンパクトな執務室。耐久性・メンテナンス性で長寿命化や維持管理コスト抑制。

5 市民が気軽に訪れて親しみやすい庁舎

- ・ 市民が気軽に訪れて集える場「（仮称）市民交流プラザ」を設け、大ホールや大会議室等の貸館を1階に集約し、市民交流や文化芸術活動などを支援。
- ・ 次世代を担う子どもたちを育む環境づくりをめざし「（仮称）子どもの遊び場」を1階に配置。



庁舎と文化会館機能の複合化により新庁舎を整備します。【令和4年完成予定】



北側外観イメージ

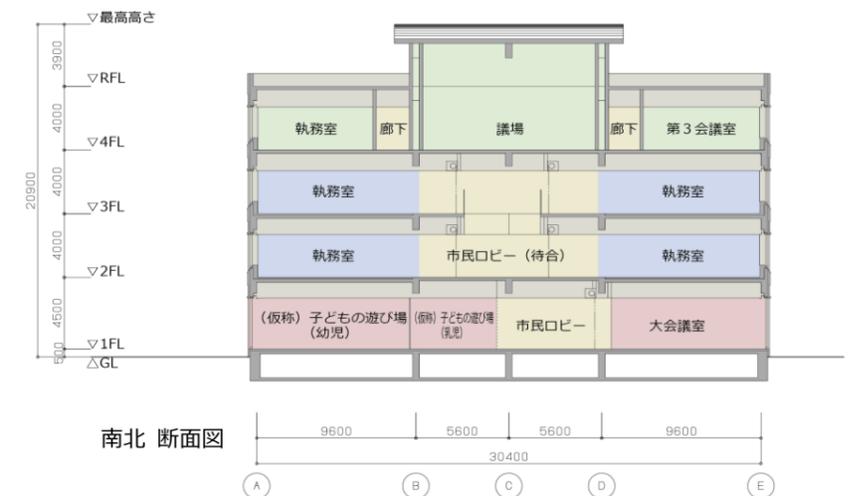
●人と人、人とまちをつなぐ庁舎

- ・ 協働のまちづくりの拠点
- ・ 市民が気軽に集える場「（仮称）市民交流プラザ」や子どもたちを育む「（仮称）子どもの遊び場」を設置
- ・ コミュニケーションポイド（吹抜空間）やガラスを用い、上下階や建物内外をつなぐ、明るく開放的な空間

●自然をつなぐ庁舎

- ・ シンプルな矩形（長方形）や水平ラインで建物のボリュームを抑え、山並みやスカイラインなど富良野らしいの自然と調和した外観

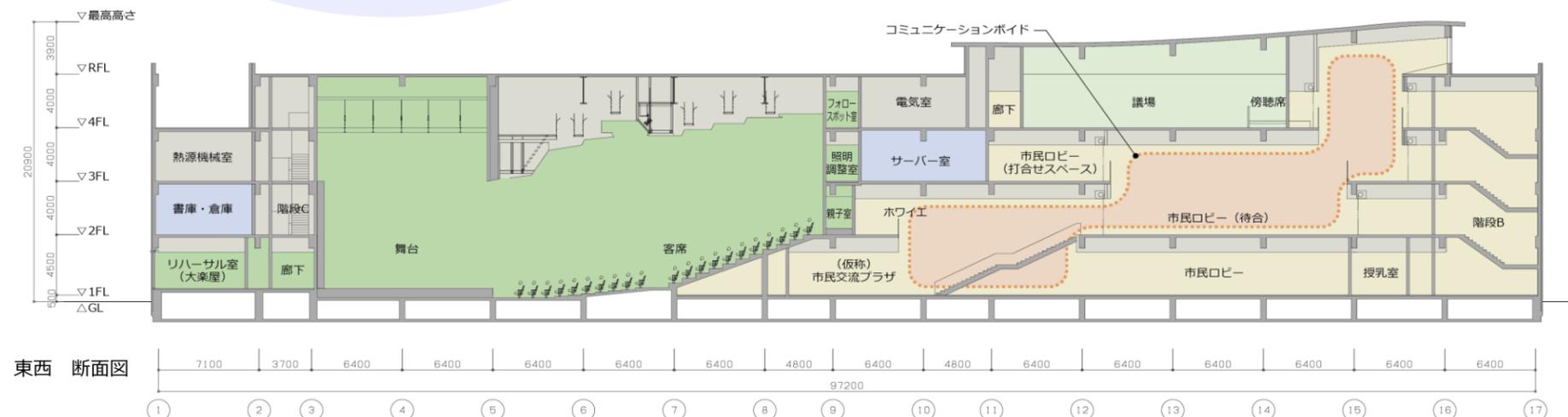
◆断面計画（階高の設定、わかりやすい階構成、浸水リスク対策）



南北 断面図



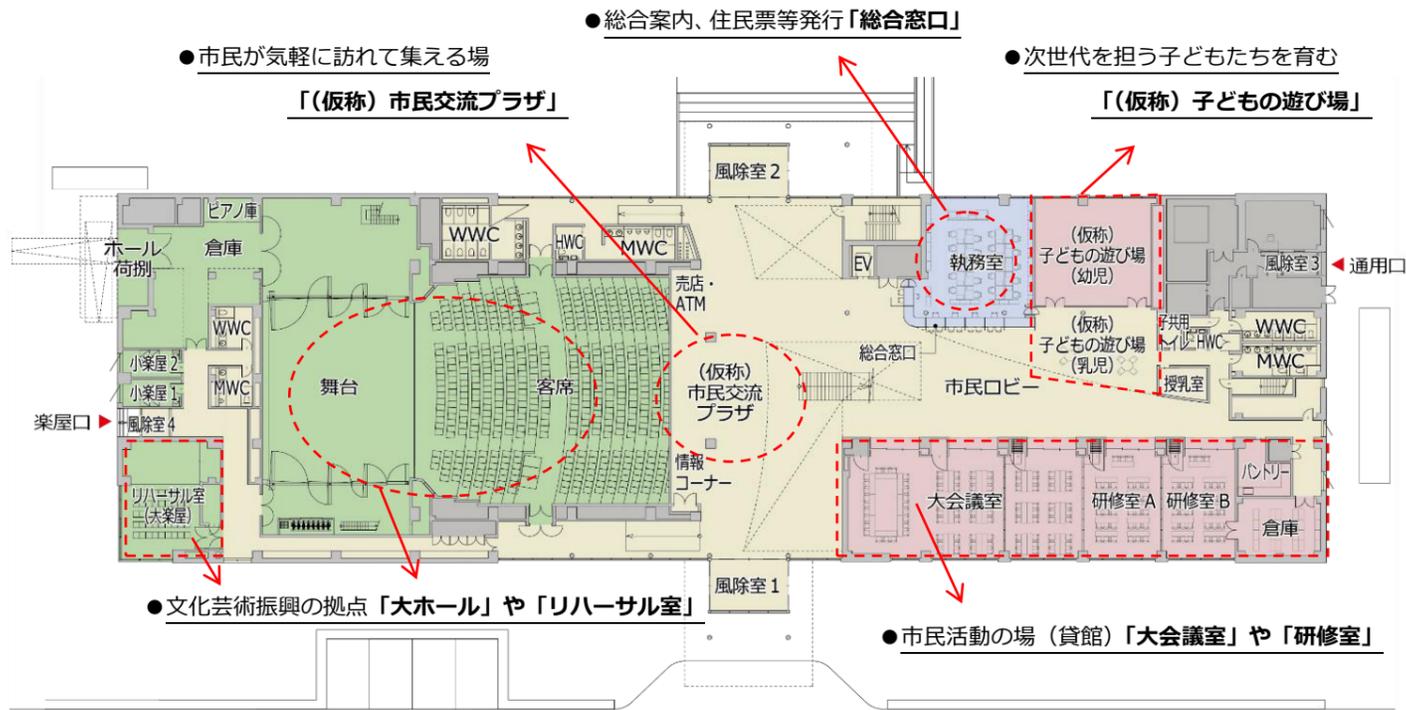
南側外観イメージ



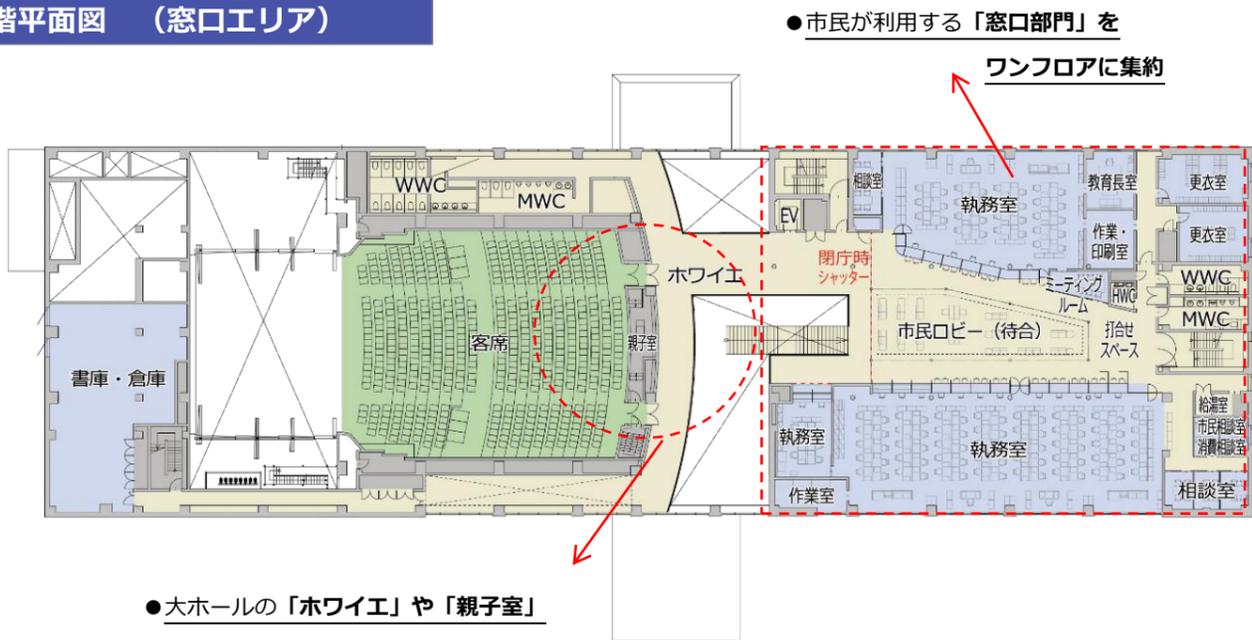
東西 断面図

◆平面計画

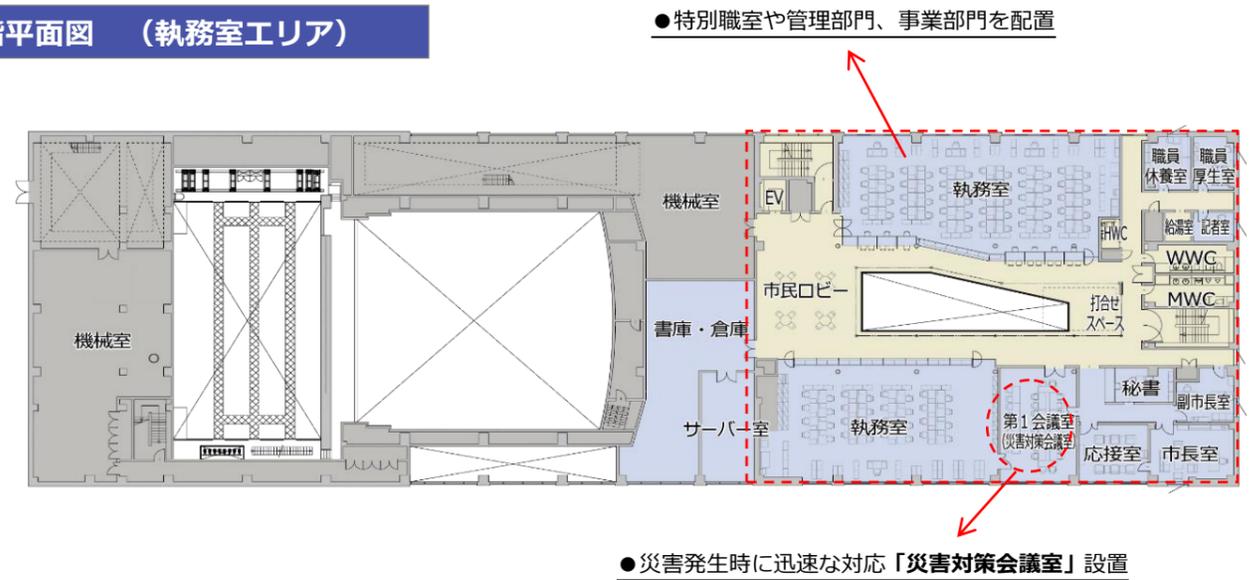
1階平面図 (市民活動エリア)



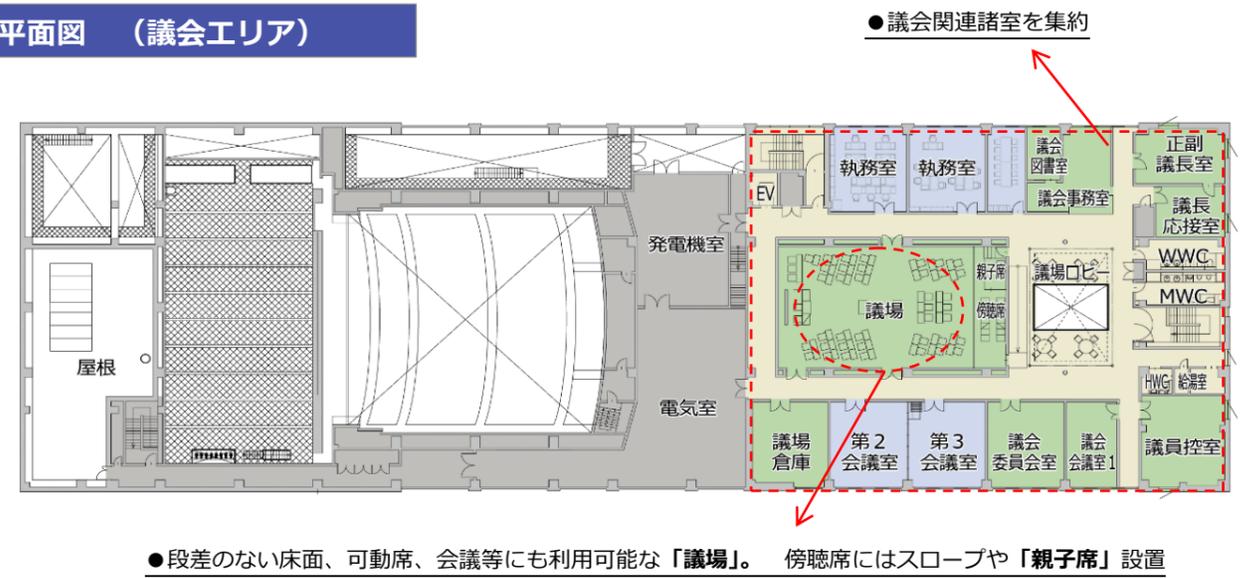
2階平面図 (窓口エリア)



3階平面図 (執務室エリア)



4階平面図 (議会エリア)



※ 図の「EV」はエレベーター、「MWC」は男性トイレ、「WWC」は女性トイレ、「HWC」は多目的トイレです。



1階 市民ロビー内観イメージ



2階 市民ロビー内観イメージ



大ホール 内観イメージ

◆概算工事費

区分	金額	備考
建設工事費	50.3 億円	建築、電気、機械
解体工事費	5.8 億円	庁舎等解体
外構工事費	1.2 億円	駐車場等整備
合計	57.3 億円	消費税 10%含む

※備品購入費、移転費等のその他の経費を含め、総事業費は 63.9 億円です。

※今後も引き続き工事費縮減に努めます。

◆事業スケジュール

- ・令和元年度～ 実施設計
- ・令和2年度～ 建設工事
- ・令和4年度～ 供用開始

◆各階に配置する部署(予定)

階数	部署名
4階	議会事務局、選挙管理委員会事務局、監査委員・公平委員会事務局、総務課(統計)、地籍調査課
3階	企画振興課、総務課、財政課、農林課、中心街整備推進課、都市施設課、都市建築課、上下水道課、農業委員会事務局
2階	市民課、環境課、税務課、福祉課、高齢福祉課、会計室、市民相談室、消費相談室、学校教育課、社会教育課、こども未来課
1階	総合窓口、市民協働課

※各階に配置する部署は、今後の組織改編等により変更となる可能性があります。